

農産物流通技術研究会

入会のおさそい

研究会の活動内容

- (1) 研究会報の発行 季刊(1、4、7、10月)に、運営委員の編集による農流技研会報(24頁)を発行します。
- (2) 年報の企画編集 農産物流通技術に関する年報を企画・編集・発行します。
- (3) 研究例会・国内外視察の開催 合計年3回、例会は東京を中心に、視察は産地や市場などで開催します。
- (4) 新製品発表会、移動カタログライブラリーの実施。
- (5) 農産物流通技術に関する国際協力の実施
- (6) 講師の派遣、幹旋 会員ならびに生産者団体(全農、経済連)、その他関係団体主催の研究会に。

農産物流通技術研究会 事務局

〒305-8642 茨城県つくば市観音台 2-1-12
農研機構 食品研究部門 食品流通・安全研究領域
流通技術・新用途開発グループ気付
TEL: 029-838-6988
E-mail: noryu-giken@ml.affrc.go.jp
ホームページ: <https://noryu.academy/>

農流技研

検索



20250701

研究会のねらい

農産物流通技術研究会は、1979年(昭和54年)10月に設立されて以来、農産物の流通に係わる研究、調査、情報交換・提供などの事業を活発に展開してきました。活動の一端を「最近の活動」に記載しましたが、130回以上に及ぶ研究例会に端的に表れているように、その活動実績は当研究会が正にこの分野を代表する組織であることを示すものと自負しています。

会員は、大学、国立研究開発法人(旧農林水産省等研究機関)、公立試験研究機関、国・県の行政機関、全農(県本部を含む)、経済連、農協、機器・資材メーカー、青果物卸売会社、スーパーマーケット、農業生産法人、関連諸団体と多岐にわたります。このような構成の特徴を生かして、農産物の流通に係わる技術、行政施策、経済、消費者受容性などの幅広いテーマに取り組んできました。

これまでの活動を顧みますと、設立当初は予冷や鮮度保持、その後は自動化技術や非破壊品質評価技術、また最近では安全・安心など、農産物流通における時代のニーズに即応した、あるいはニーズを先取りするテーマを取り上げて活動を展開し、農産物の流通ロスの低減、品質の向上、安全・安心の確保などに貢献しています。

当研究会のねらいは、次の諸点に集約することができます。

- (1) 農産物流通技術(一次加工を含む)に関する情報の交換
- (2) 新しい農産物流通技術(機器資材を含む)の普及・啓発
- (3) 新しい農産物流通技術開発推進のための活動
- (4) ビジネスチャンスに有効な、産地、機器・資材メーカー、大学・研究機関の交流、協力活動

役員

- (1) 会長 椎名 武夫 (千葉大学大学院園芸学研究院)
- (2) 副会長 川越 義則 (日本大学生物資源科学部)
馬場 正 (東京農業大学農学部農学科)
- (3) 事務局長 中村 宣貴 (農研機構 食品研究部門)
※理事、監事、運営委員、顧問につきましては、ホームページをご覧ください。

最近の活動 (2025年3月現在)

(シンポジウム・研究例会・研修視察)

第55回研修視察

2025年5月19日

「最新集出荷施設と包材のリサイクル現場を見る」
～エフピコリサイクル工場、JA 常総ひかり集出荷施設、道の駅 常総の視察～

視察先: ①(株)エフピコ関東リサイクル工場

②JA 常総ひかり八千代野菜集出荷所

③道の駅 常総

2025年度総会記念シンポジウム 2024年12月16日

「輸出額5兆円を見据えた農産物輸出の現状と今後の展望」

1. 農産物輸出の現状と課題

農林水産省 輸出・国際局 望月 光頭 氏

2. 青果物の海上輸出を実現するための品質保持技術

宮城大学 食産業学群 兼田 朋子 氏

3. 青果物輸出を支援する品目カルテと産地広域連携輸出システム概要

NECソリューションイノベータ(株) 中浦 秀晃 氏

4. 輸出業者から見た農産物輸出時の技術的要求

(株)世界市場 品質管理責任者 木下 翔子 氏

第15回研究発表会

2024年12月16日

4件の発表(口頭発表)がありました。

第131回研究例会 2024年9月4日

「LED・紫外線利用の最新動向」

1. LED開発の最前線

日亜化学工業(株) 横浜研究所 藤川 康夫 氏

2. 植物工場における品質向上に向けたLEDの利用

千葉大学大学院園芸学研究院 後藤 英司 氏

3. 収穫後品質保持のための紫外線の利用

山口大学大学院創成科学研究科 山内 直樹 氏

4. 紫外線による殺菌の最新動向

ウシオ電機(株)光プロセス事業部 内藤 敬祐 氏

会員の種類・特典・年会費

1. 正会員(個人会員) 年会費 6,000円

- 季刊会報および農産物流通技術に関する年報を1部送付。
- 研究例会、セミナーへの会員価格(3,000円)での出席(非会員は10,000円)。
- 研修視察(見学会等)、海外視察などへの割引料金による参加。

2. 団体会員 年会費30,000円(1口1名当たり)

- 季刊会報および農産物流通技術に関する年報を1部送付。
- 研究例会、セミナーへの会員価格(3,000円)での出席。2名以上は5,000円/人。
- 研修視察(見学会等)、海外視察などへの割引料金による参加。
- 研究例会、セミナーの席上で新製品の発表や説明会を行うことができる(30,000円)。

3. 維持会員 年会費70,000円(1口3名当たり)

- 季刊会報および農産物流通技術に関する年報を最大3部送付。

- 研究例会、セミナーへの会員価格(3,000円)での出席。4名以上は5,000円/人。
- 研修視察(見学会等)、海外視察などへの割引料金による参加。
- 研究例会、セミナーの席上で新製品の発表や説明会を行うことができる(無料)。
- 新製品情報を会報へ載せることができる。

4. 学生会員 年会費1,000円

- 研究例会、セミナーへの学生会員価格(1,000円)での出席。

<入会申し込み>

右側の入会申込書(あるいはホームページにある入会申込書式)にご記入の上、電子メールまたは郵送で、事務局へお送りください。

入会申込書

農産物流通技術研究会に、下記の通り、入会申込致します。

正会員、団体会員、維持会員、学生会員

10月、4月より 会費 円

フリガナ

組織名

部署名

役職名

フリガナ

氏名



所在地 〒

TEL :

FAX :

携帯 :

e-mail :

会費の支払 月 日 請求書 要、不要

※ 企業の方は団体または維持会員のいずれかでお申し込みください。会員有効期間は10月1日から翌年9月末日ですが、4月1日から翌年3月末日も可能です。

会費のお支払い：原則として年会費は前納です(維持会員のみ年2回分割可)。下記口座へお振り込みください。

常陽銀行谷田部支店：普通口座 1470362

郵便振替：00120-0-315135